

のあり、熾に會社側の態度を難する演説を爲し居たる時本工場より「職工は示威運動のため再び市中に繰出す」との情報ありたれば俄に同工場に於ても示威運動の議成立し、二千餘の職工は同工場の正門より例の「團結は我等の最後の勝利」等記したる長旒を靡かせつつ午後零時半より繰出し、西新開地を練り歩いて工場に歸り解散せり。

最高幹部會にて決定したる各個別要求提出方針に従ひ、曩に要求を提出したる電氣、造船兩工作部の後を享けて此日午後二時造機工作部に於ては代表者八名を選びて會社側に要求を提出せり。職工團代表者は胸永、出來、岡本、岡、富永、難波、佐藤、高橋の八氏にして會社側よりは例に依りて永留、山本兩重役其他出席、第三應接間にて會見せり。先づ職工代表の岡氏立ちて代表委員全部を起立させ敬禮せしめたる後「造機工作部の職工一同を代表し其の決議に基き要求を提出する」旨を述べ、胸永氏要求書を永留重役に提出す。永留氏は其の内容を一覧の後「此の要求は最初に提出せる電氣工作部の夫と殆んど同様なるが要求に關しての理由は如何」と訊す所あり。各代表委員は電氣工作部と全く同様なる理由に因る旨を答ふ。茲に於て永留氏は曩に電氣工作部代表との折衝に際し拒絶せると同一の論據に依り「社長歸朝まで隱忍すべし」と逃げて之に應せず、代表委員と押問答を續けたるが、職工側にては結局要求に就ては何等の要領を得ず、會見一時間余に及んで三時二十分要求書を撤回して會見を終り引上げたり。例に依りて同社電氣、造機、造船の各工作部職工四千餘代表委員に聲援の爲

め本社を包圍してに旺に喊聲を擧げ示威する處ありしが、各部要求は全部同様運命に陥り拒絶せられたれば、同夜爭議團幹部は友愛會神戸聯合會に於て聯絡會議を開き策戰計畫に就き協議する處ありしが、曩に決定せる方針に従ひ翌月製罐部の要求提出を行ひたる後、各工作部各工場職工全部の名を以て一致的に會社側に當る事に決定せり。

翌十二日川崎本工場に於ては電氣、造船、造機各工場共職工は全部平常通り出勤、各工場代表職工は本部を造船部仕上工場の一隅に置き、爾後の行動方針に關し協議せる結果、先づ職工が工場を管理する事の前提として各工場の入口に委員を詰させ、出入職工を一々誰何して罷業本部の入場許可證を所持せざる者は絶対に入場を許可せざる事となりたる爲め、職工に扮せる私服警官等は大いに狼狽したるが、一方當時建造中なりし軍艦「加賀」驅逐艦「あし」其他汽船等に萬一の事ありてはと多數の制服警官憲兵等は其警戒の任に當りたり。職工の結束と秩序に就きては委員等は飽迄完全を歸する爲め前記仕上工場内の本部の外湊町一丁目美術俱樂部に神戸労働爭議團總本部を置き、絶えず川崎工場内の本部と連絡を保ちたり。隨ひて職工側の緊張振は目覺しきものあり。同日は示威運動を行はず職工側委員指揮の下に作業を行ひたり。

一方葺合分工場職工七百餘名は此日出勤せるも作業せず、場の彼方此方に集合して凝議に時を費す事約一時間、遂に示威運動を決して各自俄造りの大旗小旗を手に翳しつ、午前八時喇叭隊を先頭に勞